的意義は、社会の不平等に関する新しい理論を試みること、伝統的な不平等理論に挑戦することにあった。

筆者は、中国の場合、社会階層には二つの異なる情況があると考える。一つは政治的階層であり、もう一つは経済的階層である。したがって、社会階層と社会不平等を検討するとき、どちらの方面の不平等なのかを見る必要がある、と思う。筆者の観点によれば1949年の中華人民共和国建立から1979年の改革開放以前までは、経済面では大体において平均主義が優位を占め、国家の再分配メカニズムは経済的格差を縮小するという役割を果たしたが、スゼレンニ、ビクター・ニーたちが言ったような社会主義国家の再分配は社会の不平等にまでは及ばなかった[3]。しかし、政治面から見ると、まったく反対の情況がみられる。1949年から文化大革命の終わり頃までは、政治的不平等、さらに政治的差別さえその程度がかなり高かった。1979年経済改革と同時に、重要な政治改革があった。70年代末、80年代初めの政治変革である。社会階層の角度から見ると、これは政治的差別をなくし、政治的平等を実現する改革である。この改革以後、政治的格差は縮小した。例えば、政治的な出身階級を廃止することが発表され、各種の政治的差別のレッテルを取り除いた。知識人は労働者階級の一部分であると宣言し、農民は移動の自由を得た、等々。1979年以後、中国は改革開放の政策を実施したが、その本質は市場経済を発展させることにある。市場経済を導入してから、人々の間の経済的格差は明らかに上昇した。この点においては、多くのデータを用いて証明することができる。スゼレンニ、ビクター・ニーが言ったように、市場移行後に経済上の平等化効果が生じ、人々の経済的格差が縮小した事実はない。もし平等化効果があるというならば、それが経済面ではなく、政治面にある。

したがって、中国の場合、改革開放以前においては、政治的階層が十分に明らかであり、政治的不平等と政治的差別が比較的厳重であった。市場導入以後、政治的差別は縮小したが、人々の間の経済的格差は明らかになった。したがって、政治的不平等は経済的不平等によって取ってかわられたのである。すなわち、**中国における階層格差は、政治的不平等においても、経済的不平等においても、比較的一貫して大きいと指摘できる。**

以上による筆者の結論はこうである。**社会の不平等は社会構造内部に深く隠れている社会集団の間の関係であり、政治的階層と経済的階層は、ただそれの異なる表現方式でしかない。**階層の本質は人間集団間の関係と資源占有をめぐる人間集団の関係にある。資源が十分に乏しいとき、人間集団間の関係は必然的に緊張が高まり、社会不平等の程度も必然的に高くなる。

政治的階層と経済的階層は、一致することもあるが、一致しないこともありうるし、完全に相反することもありうる。例えば、1949年から文化大革命の終わりまでの間は両者はまったく相反の情況にあった。当時の経済上の平等主義は政治上の高度の不平等にとって、一種の「偏り是正」あるいは均衡の役割を果たした。今日の中国では、経済的不平等が大きく上昇しているが、政治的差別の排除および政治的平等主義の実施は、経済上の不平等にとって同じように一種の「偏り是正」あるいは均衡の役割を果たしている。したがって、政治的階層と経済的階層から離れて、抽象的に社会階層の平等と不平等を語ることは、一方に偏ってしまう結果になる。仮にこの観点で解釈すれば、ウィリアム・パリシュの「反階層化現象」は国家社会主義の経済的階層について語っているのであり、ビクター・ニーの平等化効果は改革以後の政治的階層について語っていることになるわけである。

したがって、上記の問題を検討するとき、われわれはまず二つの異なる社会的格差、社会階層を明確に区別する必要がある。二つの社会的格差の性質、範囲、領域などはすべて異なる。もし政治的格差だけに注目し、経済的格差を無視すれば、改革開放以前の計画経済下の社会的不平等は高く、ひいてはその後の市場移行期よりも大きいという誤った認識をもたらすだろう。逆に、もし経済的格差だけに注目し、政治的格差を無視すれば、市場移行期の社会的不平等は大きく見え、改革以前の不平等よりはるかに大きいという不正確

3) 原注①p. 33孫立平『从“市場轉型理論”到関於不平等的制度主義理論（一）、（二）』中国書評1995年9月第七期、59頁を参照。